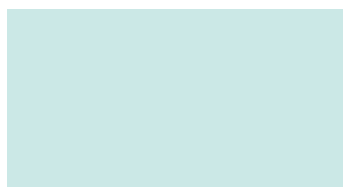
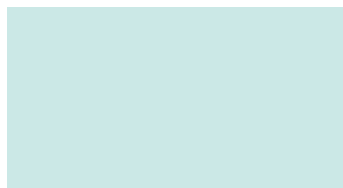




B U N K A Z O U K E I



**P1**

卒業研究優秀作品

**P15**

特色ある教育プログラム

**P23**

学外連携活動報告

## ごあいさつ

文化学園大学造形学部は1965年に設置された文化女子大学短期大学部生活造形学科を前身とし、57年の歴史を重ね、今日に至っております。現在では、造形学部はデザイン・造形学科と建築・インテリア学科の2学科から構成されており、「新しい美と文化の創造」という建学の精神のもとに、時代の先を見据えて生活の質を向上させるモノづくり、コトづくりに貢献できる人材を育成する教育研究を展開しています。

本報告集は、造形学部の一年度の主だった教育活動を取りまとめたものであり、卒業年次生全員が4年間の学びの集大成として取り組む卒業研究を紹介する『卒業研究優秀作品』、都心に立地する本学造形学部ならではの『特色ある教育プログラム』、地域や産業界と連携して実践的に学ぶ『学外連携活動』について報告させていただくものです。

多くの皆様に本報告集をご覧いただき、ご意見、ご感想をいただいて、本学部の新たな発展につなげてまいりたく存じます。本学部の教育事業に日頃からお協力いただいております多くの方々から御礼申し上げますとともに、今後ともご指導、ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

造形学部長 渡邊 秀俊

## デザイン・造形学科

本学科では、1、2年次に基礎授業で造形力や表現力を磨きます。3年次からは専門の3コースに分かれて、グラフィックデザイン、生活用品や雑貨のデザイン、書籍の編集、映像やアニメーション制作、ジュエリー・金工・七宝のデザインと制作に取り組めます。4年次の卒業研究では、学生各自が1年間に渡って制作に取り組み、作品を発表します。今年度は、オンラインも併用しながら、実習・演習のほとんどの授業はソーシャルディスタンスに気を配って対面で行いました。地域や産業界と連携した授業も昨年度以上に活発な取り組みとなりました。この学修の成果をご紹介します。

## 建築・インテリア学科

本学科では、建築とインテリアにかかわる幅広い知識と技能を身につけ、今日の社会的な課題を自ら発見し、生活者の視点から論理的かつ創造的に提案できる人材の育成を目指しています。3年次からは、建築とインテリアの2コースに分かれ実践的な設計課題や産学連携授業に取り組めます。また、4年次の卒業研究では、学生が自分の関心をもとに研究テーマを設定します。学生はコースの枠を超えて指導教員を主体的に選択し作品制作や論文執筆に挑み、学外展にも挑戦します。本書にて、学生たちの取り組みの成果の一端をご紹介します。

# 卒業研究優秀作品

卒業研究展は4年間の学びの集大成として、4年生全員が各自の研究テーマを設定し、1年間かけて作品制作や論文執筆に取り組めます。新型コロナの影響で昨年度までの2年間はオンラインでの展示公開をしましたが、今年度はオンライン展示と同時に本学内での展示を3年ぶりに行いました。優秀作品は各コースから数点選出され、各コースの最も優れた作品1点に学長賞が授与されます。



E x c e l l e n t A n t h o l o g y

C	o	n	t	e	n	t	s
卒業研究優秀作品	1	特色ある教育プログラム	15	学外連携活動報告	23		
メディア映像クリエイションコース	2	キャリア形成教育科目	16	地域連携活動報告	24		
グラフィック・プロダクトデザインコース	4	コラボレーション科目	18	産学連携活動報告	27		
ジュエリー・メタルデザインコース	6	その他 特色ある授業	19	学生の受賞	31		
インテリアデザインコース	8	イベント・学外連携	20				
建築デザインコース	10						
卒業研究タイトル一覧	12						
卒業研究 2022 年度の取り組み	14						



## 横須賀・三浦ときめきマガジン「ILO」(イロ)

服部 季海

142頁 無線綴じ くるみ製本 本文: Mr.B スーパーホワイト90kg / 表紙: コート紙 180kg マットPP加工 280×210×9.5mm ウェブサイト [TAKARA BAKO by ILO]



### 解説

私の地元である神奈川県横須賀市・三浦市で見つけたたくさんの「ときめき」を地元民・移住者向けに紹介した「ILO」それに伴うウェブサイト「TAKARA BAKO by ILO」の制作。やさしい人に触れてはときめき、美味しいものを食べてはときめき私がこのまちで見つけた小さな「ときめき」をたくさん詰め込んだ雑誌です。これを読んでくれたあなたが、今暮らしているこのまちのことを、昨日より少し「悪くないな」と思えるきっかけになれば。あなたが近所の「ときめき」に出会うきっかけになりますように。

### プロセス

まず取材したい店舗やクリエイターのピックアップからはじまり、事前にインタビューシート・撮影ラフスケッチを作り、先方と日程のアポイントを取りインタビューへ。掲載記事に間違いがないよう、インタビューは必ず録音を録り、音源から文字起こしをして、Adobe InDesignで編集・誌面のレイアウトデザインを行いました。堅い印象の雑誌になるのを避けるため、イラストを入れたり、エッセイや4コマ漫画も取り入れたバリエーションに富んだ誌面構成にしました。

### 講評

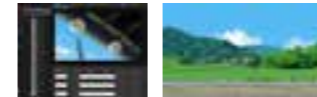
一人で取材、編集、誌面デザインの三役をこなし、作者の地元である三浦・横須賀を紹介した142頁に及び意欲作。書店に並び観光ガイド本とは一線を画し、独創的でオリジナリティーのあるショップやクリエイターを取り上げ、丁寧な取材を通してその魅力を上手に引き出している。作者の強いこだわりと情熱と地元への深い愛が溢れる一冊となっている。過疎化が懸念される地方都市が抱える現実問題にも足を踏み入れており、その社会的意義も大きい。

## すず風

高橋 未来 アニメーション  
1920×1080ピクセル  
5分15秒

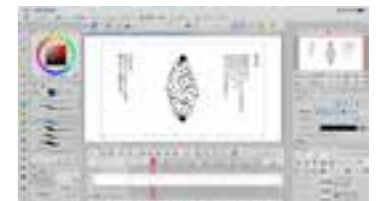
### 解説

背景とキャラクターがより魅力的に見える光の描画方法を研究しました。一つの作品内で様々な種類の光を描画し、昼から夜、室内と野外を比べた時に感じる光と影の印象の差を表現しました。時間帯や状況が伝わる絵になるよう色味の微調整を行ったり、キャラクターと背景を合成した時、綺麗に馴染むようにエフェクトやレンズぼかしなどを使って空気感を出したりしました。



## 詩の夢 (うたのゆめ)

萩原朔太郎作品より アニメーション  
1920×1080ピクセル  
6分32秒



**解説** 萩原朔太郎の詩を元にしたアニメーションの制作による映像表現の研究。詩集「月に吠える」の中から八編の詩を選び、作品それぞれの世界観を表現できるようなアニメーションを制作した。一つの作品ごとに映像のテイストを変え、その詩の個性を出せるように工夫して制作を進めた。八編の映像を一本の動画にまとめ、「詩を読んで自分が見た夢(イメージ)」と、「詩自体が見ている夢」という意味を込めて、「詩の夢」というタイトルを付けた。

## GOODHOAX

大園 堅斗 コラーージュ画集 210頁 無線綴じ  
297×210×13mm

### 解説

「アウトプットがインプットを追い越し、その環境の中で創作活動を行う」ことをテーマにし、100日間連続でコラーージュアートを作成しました。制作を続けることで、何かアイデアを取り込むインプットよりも、制作というアウトプットが先行させることから、コラーージュアートは姿形を変え、あらゆる構図を生み出しました。アイデアがほぼ皆無な状態で制作する日もありました。それらを100個の作品をまとめ、制作した書籍は2種類です。見た人それぞれの感性で作品を受け取ることのできるタイプと、作品に対するキャプションが付いているタイプです。一つ一つの作品の構図、作風の変化、心情の変化を感じていただければ幸いです。





## アナログな印刷方法による紙雑貨の制作

クイケン ステラ

活版印刷、ゴム版／紙、木材  
 アナログカレンダー：112 × 220 × 65mm (3点) カード：100 × 100mm (16枚)  
 キーチェーンカレンダー 40 × 30mm (2点) アドベントカレンダー 210 × 140 × 40mm



アナログカレンダー



キーチェーンカレンダー



アドベントカレンダー

### 解説

便利な物事が増えていく世の中に疑問を持ち、アナログな物こそ私たちの生活にゆとりや豊かさをもたらしてくれるのではないかと気がついた。版画や昔の印刷技術による版のズレ、かすれ、凹みから、人の手が加わった物の豊かさに私は魅力を感じ、時間と手間をかけ、アナログな方法で紙雑貨を作りたいと思った。カレンダーは活版印刷を日常に取り入れられるアイテムでもあり、是非生活の中にアナログな物を用いる豊かさを見い出して欲しい。

### プロセス

テーマに適した版画技法や活版印刷について調べるところから始め、活版印刷が出来るスタジオを自身で調べ、インターンとして通いながら制作を進めることになった。求める表現に合う技法や素材選び、活版印刷に適した紙選びにもこだわった。ゴム版を彫り、刷り、活字を組み、刷る。後半はひたすら地道な作業を繰り返した。制作の様子も撮影しながら進め、最後にはメイキングムービーも作成した。全て自分の手で作るということにこだわった。

### 講評

デザインのほぼすべての工程が PC モニター上で完結する現在において、作者は活版印刷というオールドメディアに取り組んだ。バラバラな鉛の活字を一字ずつ正確・丁寧に並べる組版作業には、根気と繊細なタイポグラフィセンスが要求される。作者は今回の制作を通じて「温故知新」の体験的な学びと、暮らしに身近な日用品に手作りの温もりをもたらすことに成功している。研究 (input) と制作 (output) を見事に両立させた真摯な卒業研究である。

## ティータイムを楽しむための商品企画

三宅 優美

### 解説

遊び心のある紅茶の商品があれば、ティータイムの話題になったり、癒されたりとっと楽しめるのではないかと思い、このギフトセットを提案した。モチーフは猫と金魚と金魚鉢で、ティーカップを金魚鉢に見立て、猫がカップの中の金魚を狙う様子をイメージしてデザインした。フルーツフレーバーの猫のキャラクターも制作し、紅茶のほか、レターセットやトランプといったノベルティへのデザイン展開もした。



## 生活に寄り添うお香のブランディングデザイン

内藤 望未

### 解説

「刻々と変わりゆく空のように移り変わる日々と暮らしに寄り添えるお香のブランド」をコンセプトに、多様な日常に添うお香の制作およびブランディングデザインを行った。朝、昼、夕、夜をイメージしたセットを展開し、モチーフにした空を想起させるカラーを用いシンプルかつやわらかさを感じるようなデザインを意識した。お香の包みには自己燃焼しない紙を使用し、受け皿として使った後は焚き終えた灰を包んで捨てることのできる仕組みにし、お香をより気軽に楽しめるよう工夫した。



## 韓国の地域をモチーフとしたディフューザーデザイン提案

ジョ ヒョン

### 解説

韓国の様々な地域の中から坡州、保寧、宝城、高城、咸安の5つの地域を選び、各地域をモチーフに香りのディフューザーのデザイン提案を行った。スティックと瓶本体は各地域の特徴を抽象化したオブジェとして制作し、瓶の綺麗な三次曲面造形と今までにないスティックの在り方にこだわった。パッケージ等も含め、色合いをモノクロ色調に統一して落ち着いた雰囲気を出した。留学生である私が愛情を持って制作に臨むことができた作品となった。





# My Buddy

荻野 紗恵

有線七宝、ロストワックス/シルバー 925 (金めっき)  
130 × 160 × 6mm



**解説**

古代エジプトでは、ペットとして可愛がられていた動物の墓が見つかるなどペットと人間は古くから繋がりがあった。また、古来より犬は人間の相棒として生活してきた。現代では犬は家族の一員として認識され、このコロナ禍で、ペットとの相棒のような繋がりが以前より強まってきていると感じた。この事から飼い主と犬との「繋がり」をテーマに古代エジプト時代を思わせるような神秘的で煌びやかな装飾品をイメージしたデザインで犬の首輪を制作した。

**プロセス**

試作では七宝を枠の上から嵌め込む構造で制作したが、ツメが見えてしまうことや、外枠と七宝との隙間ができてしまうことが気になったため裏から七宝を嵌め込むことでツメを隠すことができる額縁のような構造に変更した。有線七宝は、主に銀線を使用することが多いが、今回は真鍮線を使用した。真鍮線は焼成すると酸化してしまうため、その都度酸洗する工程に手間取った。外枠は金めっきにする事で鮮やかな七宝と相性が良く華やかな印象になった。

**講評**

本研究作品はコースの専門課題で習得した技術のうち「有線七宝」と「ワックス造形」を的確に融合しデザインを具現化した優作である。ペットのポートレートを撮影するための専用ジュエリーというコンセプトは新鮮で、ペット産業や愛好家に新たな分野のヒントになることが期待できる。拘りを持った探究心は問題の発見と修復を自ら完結できる力となり、作業工程1つ1つを丁寧に進めているため完成度の高い作品となっている。

## 混沌

新井 悠斗

ワックス・鑄造/銀・螺鈿  
97 × 68 × 20mm  
99 × 45 × 29mm  
116 × 64 × 19mm

**解説**

戦争や感染症、汚職やその他社会問題といった現代社会の混沌とした世界をテーマにした。混沌とした世界から抜け出して、自分なりの新たな世界を見つけそこで何かを手にする瞬間を表現した。このブローチは着用者が何かの物事に挑戦する時に少しでも勇気を与えられるように美しい螺鈿と銀を使い制作した。銀をいぶし、その上に螺鈿を貼ることで美しく輝く新たな世界を表現した。



## 深海満福セット アイロニー

川上 智華子 打ち出し、すり出し、錫引き/銅、真鍮  
300 × 300 × 100mm 他 2点

**解説**

私は「不味いものがあるから美味しいものがある」と考える。また味覚は人それぞれであり「不味い」と感じるものも自分以外には「美味しい」と感じることもある。そんな紙一重の関係である「不味い」「美味しい」を一度考え直すきっかけになるようなものを作りたいと思った。そこで、作品ではグロテスクな見た目から不味いと思われやすい深海生物をモチーフに、鍛金、彫金の技法を使い、ボウル、トング、フォークを制作した。



## 縄文銅皿 祈り

丸茂 ほの香 彫金、打ち出し/銅 (銀めっき)  
400 × 380 × 18mm

**解説**

生まれ育った土地の文化を大切にしたいものづくりの集大成として、縄文土器をモチーフにした菓子皿を制作した。形状は翡翠の勾玉をイメージしており、4枚を組み合わせることで外形が繋がる。デザインにおいては縄文土器を大まかに蛇体、双眼、火焰型、顔面把手の4つに分類。親子の愛や信仰、縄文人の生命に対する捉え方を感じさせる様々な縄文土器を再構築して、縄文人の祈りのカタチを表現している。



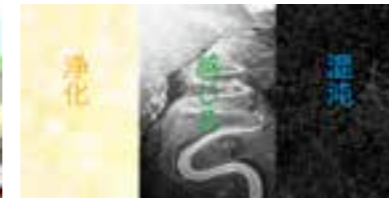
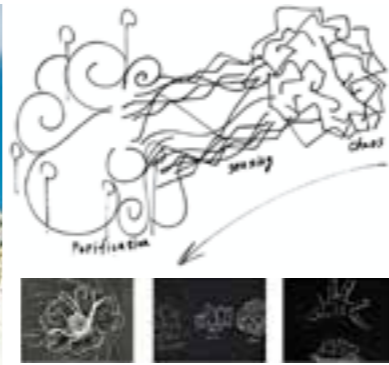


# Empathy

—動けぬものが見る、感じる世界—

新田 貴大

【制作】  
600 × 1200 × 200mm



### 解説

人から必要とされなくなり、捨てられたモノが時を経て、徐々に浄化し、美しく変容していく様を、象徴的に建築、インテリア空間で表現した。人々がモノに対するありがたさや思いやる気持ちを高めて欲しいという願いを込めた。SDGsに意識を向け、社会的問題を意識してもらおうトリガーになり、歴史的な夢の島のこの美術館で新たな未来の夢を見られる様にSDGsに関わるシアター、ギャラリー、カフェ、レクチャースペースなどの様々な要素を盛り込んだ。

### プロセス

街を歩きながら意識すると、多くゴミが落ちていくことがわかり、胸が痛む。このような現状を空間やデザインでなんとかできないだろうかと思ひ、このプロジェクトをスタートした。SDGsを調べていくうちに、日本人の美德であるモノを大切にすることを大切にすることに気がついた。これらを混沌→感じる→浄化のプロセスに可視化することで、人々の意識、感情、行動を変化させる、日本的な文化も世界発信できる企てをしていった。

### 講評

アーキテクトやインテリアアーキテクトと呼ばれるには、概念や思想をカタチにする力が設計以外にも求められる。彼が真摯に取り組んできたこのゴミ問題に対する意識改革、行動変容を促す空間想像や創造への取り組みには、世界中で重要視されるSDGsの目標も含まれている。この作品には強い時代観、社会的思想や概念が込められ、見る人の心を激しく揺さぶるインパクトがある。将来有望なアーキテクト候補がまた一人誕生した。

## 嶺南の建築を現代に活かす公共広場の提案

LIU HAILAN

【制作】 模型 A: 1090 × 750 × 190mm  
模型 B: 950 × 400 × 230mm  
模型 C: 480 × 300 × 80mm

—南頭古城の再生計画—



### 解説

中国の南頭古城に、嶺南のシンボルとなる公共広場を提案する。伝統的な嶺南建築様式を現代の建築の要素や材料に融合させ、古城の息吹は失わずに新しい外観を持つ多面的な様式とした。敷地は2カ所に分かれ、エリア1は地域住民の憩いと賑わいの場となる「総合サービスセンター」、エリア2は「当代の嶺南庭園」である。古城の鮮やかで多様な歴史的記憶と、人々の日常の営みを保持しつつ、同時に未来へ向かう体験をもたらししている。

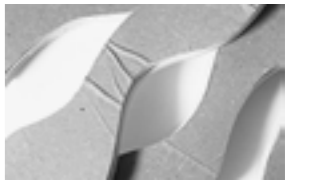


## Seasonal Scent Travel

—嗅覚の総合複合施設—

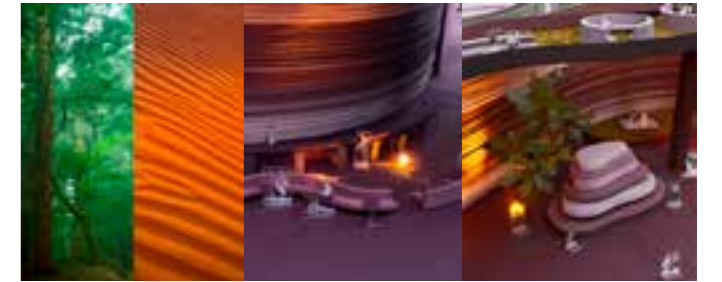
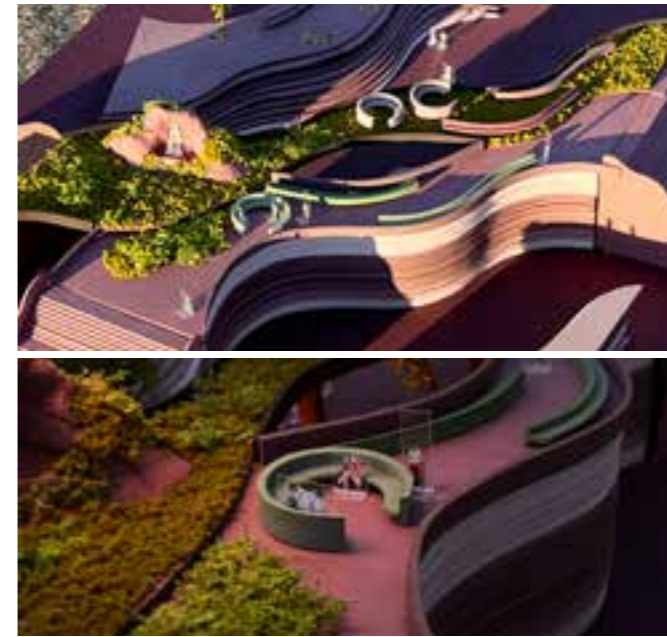
河内 優斗

【制作】  
1030 × 728 × 150mm



### 解説

風の流れるような香りをイメージした空間の提案。避暑地の森をイメージさせるようなグリーンノート・長い間日照りが続いた大地が放つ土の香り・焚き火で出るパリパリ感のあるウッドノートなどの香りが自然に漂う場。地上階にあるカフェでは空間内の香りを味覚に取り入れ楽しめる。空間内で漂う香りは、ストアでルームフレグランスとして購入できる。マスク生活によって失われた嗅覚の記憶や感情を再び呼び覚まし、日常に笑顔を!



## 空間感覚に関する他者との違いの認識

—自作小説の空間描写による錯誤体験—

藤沢 玲

【制作】  
280 × 400 × 106mm

### 解説

文章による空間描写がなされると、そこからイメージされる空間は、描写の仕方や読者の感覚によって錯誤が生まれる。本研究では、自作小説「クロッカスの舞う夜に」の執筆と、小説に登場する店舗空間の模型制作という2つのアプローチによって建築・インテリア空間を創出し、文章による描写から読者がどのように空間をイメージするのか、その個人差や、模型で表現された空間との違いについて調査・認識することを試みた。



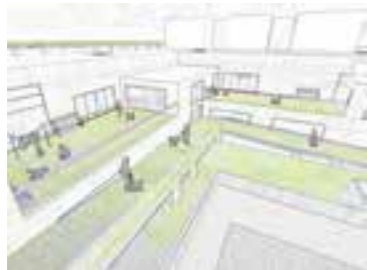
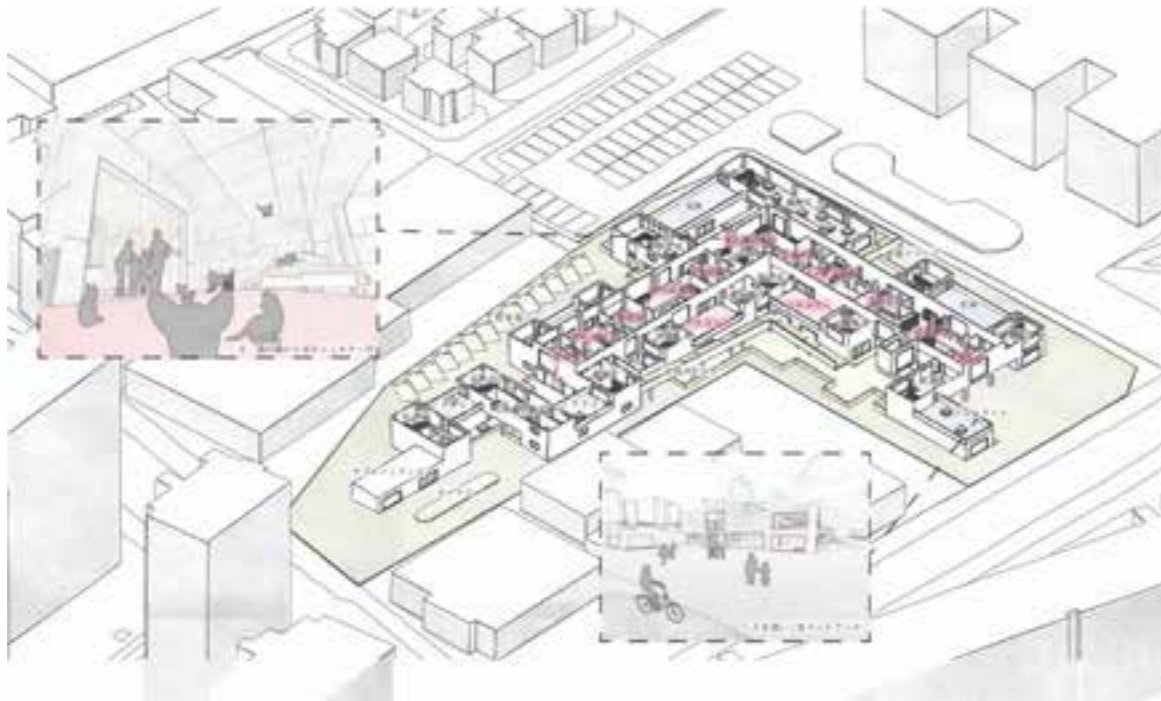


## 皆慕の楽園

—犬猫目線での幸せを再考する一時保護シェルター—

小泉 舞子

【制作】  
150 × 1240 × 1000mm



### 解説

人の集うポテンシャルを持ち、暮らしの一コマになれるような敷地に、人間社会に生きる犬・猫のためのスタート地点となるような、一時保護シェルターを計画。敷地のアプローチの延長上に浮くL字型の犬猫シェルターに巻き付き、交わるように機能する廊下は犬猫との新たな出会いを求める人間が歩む。近づき、交わり、遠ざける人の動線は、犬猫にとっては人の“気配”に慣れる契機となり、人間にとっては犬猫の生態を多角的に学ぶ場を生む。

### プロセス

私は犬猫の存在意義について 人間の為に生きる印象を持つ。しかし、法改正などから現代の日本では“人間が犬と猫のために”と謳われていると考え、共生を実現する提案をしたい。人間社会で犬と猫が幸せに生きる環境に出会えるスタート地点を作り、犬と猫の目線での幸せを再考する。人間目線で語る幸せではなく、生態や本能の知識や理解を深め、今後の日本における動物愛護活動の促進につながる拠点となる空間を設計する。

### 講評

伴侶動物を訓練するだけでなく、伴侶動物を保護団体から引き受けようとする飼い主をも訓練することを趣旨とした施設を真剣に考えた点が独創性に富んでいる。動物保護を取り巻く複雑な環境や、飼い犬、飼い猫の生態についてもよく調査するとともに、関連する建築の事例研究も熱心に行った。これらの努力のうに、人、犬、猫の動線・視線を織り交ぜることで新たな空間体験を提供しようと試みた点も高く評価できる。

## 『海の森諸島』

一人が人らしく暮らせる「現代における理想郷」を創る—

小島 康寛

【制作】  
841 × 1189 × 50mm

### 解説

昨今の混沌とした現実社会から逃避する為の「現代における理想郷」を提案。敷地は周辺環境を活かし、バイオフィリア効果のある森や海、島など自然の要素を取り入れた7つの島と、それらを取り囲む外郭から成る。島内は歩車分離し、日本の原風景を意識した建築様式や街並みとした。島内には青果類を生産する植物工場を取り囲むように、住宅、集合型住宅、宿泊施設の住戸を配置し、青果類の自給自足が完結する仕組みを取り入れた。



## 絵本に宿る

—ひらいて・として・かさなる・整う複合宿泊施設—

岩本 瑞歩

【制作】  
1160 × 1200 × 300mm



**解説** 公民連携型の絵本図書館と宿泊施設を設計した。急速に変化する現代社会では、個々が自己の考えを持ち、共有し、整理することが必要だと考えた。童話や絵本作家ゆかりの地である黒姫で、既存の観光資源に付加価値をつけ、人が流れるきっかけが生まれる施設を提案した。ボリューム・配置計画・空間構成では、絵本の動きをモチーフにし、自己の思考を共有する（ひらく）・深める（とじる）・整理する（かさなる）を意識して配置した。

## Revival

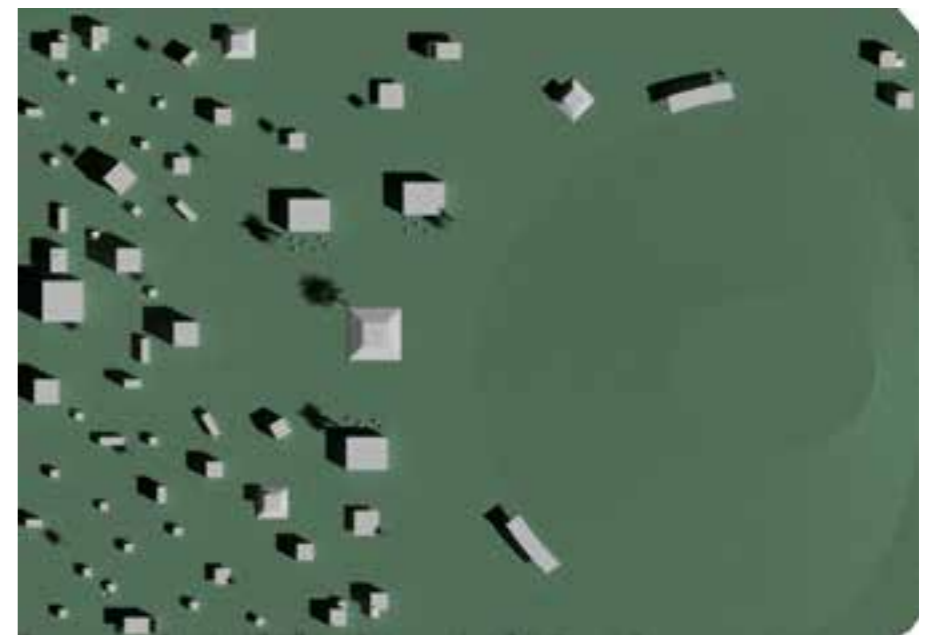
—つくば駅前公務員宿舎跡地の再開発計画—

矢中 大地

【制作】  
1200 × 1680 × 200mm

### 解説

国の政策による公務員宿舎の廃墟跡地を計画敷地とし、学術都市としての発展とともにつくば周辺の活気を取り戻すことを目指したプロジェクトである。独自のグリッドを用いた配置計画や建築の歴史的引用などの技法を駆使し、つくば市との親和性を高めた広場を提案した。ソフトな面では、市民から本の寄付を募ってつくる図書館のシステムを構築した。この広場での人々の営みが駅前の活性化に繋がり、つくば市全体の発展にまで連鎖することを期待する。







# 特色ある教育プログラム

## 第53回卒業研究展 2023年2月9日～11日に開催

卒業研究展は、新型コロナウイルス感染症の影響で過去2年間はオンライン展示のみでしたが、今年度は3年ぶりに会場での実展示を行うことができました。展示場所を広く確保するために従来の20階の会場にプラスして、建築・インテリア学科は学科実習室も利用し、下級生の実行委員が企画運営をしました。準備日を1日多くして密にならない様にしたため展示会期は以前よりも1日減りましたが、充実した展示を多くの来場者に見ていただく事ができました。



### 卒業研究作品制作風景



文化学園大学では特色ある教育プログラムとして、学科や学年をこえて開講する集中授業「コラボレーション科目」のほか、イベントへの参加、企業や他大学との協働、伝統文化の再発見など、社会や文化とのつながりを意識した課題を設けています。また学びの目的や目標を学生生活の中から考え、希望の将来像を具現化していくための「キャリア形成教育科目」を設け、企業での就業体験「インターンシップ」や、キャンパスを出て様々なモノ造りの現場や地域の文化に触れる「コースセミナー」を授業として実施しています。造形学部で今年度実施したこれらの授業に加え、学外への成果発表や専門教育科目での幅広い学びを報告します。



## Distinctive Educational Program

- キャリア形成教育科目 ..... P16
- コラボレーション科目 ..... P18
- その他 特色ある授業 ..... P19
- イベント・学外連携 ..... P20

### 実際の仕事を体験

#### キャリアデザイン(実践編) インターンシップ



12週間の研修を終えて報告会を実施



事前教育では社会人のマナー講座も実施



企画デザイン会社での研修の様子

◎担当教員  
建築・インテリア研究室 丸茂みゆき  
◎取り組んだ学生  
造形学部3年

夏季休暇中に1~2週間の日程で実施しました。3年の4月から書類選考や面談を行い、24名が12の企業様への研修に参加。コロナ禍だったので日程やオンラインへの変更がありましたが、事前教育や大学での研修報告会も実施することができました。就活への準備として成果の共有をすることができたので、次年度につなげてもらいたいと思います。



制作会社での研修の様子

1年次の「キャリアデザイン(導入編)」を踏まえ、3年次には実践的活動の場としての「インターンシップ(単位認定科目)」、展開編として位置づけられる「コースセミナー」を通して専門性を生かした社会人としての将来像をより具体的に描くことができるようになること、目的をもって専門教育を習得し社会に巣立つ意識を持つことを目標としています。

### 書籍や実空間の体験を通じて建築を考える

#### キャリアデザイン(展開編) コースセミナー



「三鷹天命反転住宅」の空間体験

◎担当教員  
建築・インテリア研究室 渡邊裕子、種田元晴  
◎取り組んだ学生  
建築デザインコース3年

この授業では2つの内容を実施しました。最初に「LIFE SHIFT」を各自事前に読み、100年時代と言われる人生について、グループごとにディスカッションと発表を行いました。次に、現代美術家の荒川修作+マドリン・ギンズが設計した「死なないための住宅」である「三鷹天命反転住宅 イン メモリー オブ ヘレン・ケラー」と周辺の街並みや建築を視察しました。



グループディスカッション後の発表

### クリエイティブな発想を磨きキャリアについて思考する

#### キャリアデザイン(展開編) コースセミナー

◎担当教員  
建築・インテリア研究室 横山穂、曾根里子  
◎取り組んだ学生  
インテリアデザインコース3年



クリエイティブな発想を磨くワークブック課題の発表と講評



学生同士で互いのアイデアやデザインを共有する



卒業生によるレクチャー

多様な働き方・生き方を考えるために必要な力として、クリエイティブな発想と思考を磨くことをテーマに、2回のセミナーを行いました。1回目は短時間でアイデアを創出・表現するワークブック課題に取り組み、2回目は2名の卒業生によるレクチャーと、ワークブック課題の続きおよび発表・講評を行いました。

### 卒業生の講話と印刷体験

#### キャリアデザイン(展開編) コースセミナー

◎担当教員  
グラフィック・プロダクト研究室 白井暁、山崎裕子  
◎取り組んだ学生  
グラフィック・プロダクトデザインコース3年

グラフィック・プロダクトデザインコースではコースセミナーとして印刷博物館での見学 & 活版印刷ワークショップと本コースの卒業生を呼んで社会での活躍の話を聞く「ようこそグラフィック先輩!」の2つのプログラムを開催しました。印刷博物館では普段自分たちが当たり前前に課題を制作する際に使う「印刷」についてその歴史と技術を学び、また「ようこそグラフィック先輩!」ではリアルな現場の話など、これから向かって行く社会に向けて色々考えることの出る良い時間を過ごすことができました。



印刷博物館 活版印刷ワークショップの様子



「ようこそグラフィック先輩!」の様子

### 歴史的美術品や研究の観察から未来へ繋ぐものづくりを考える

#### キャリアデザイン(展開編) コースセミナー

◎担当教員  
金工研究室 狛山元子、成井美穂  
◎取り組んだ学生  
ジュエリー・メタルデザインコース3年

2日間の日程のうち1日目は、事前学習で調べた刀剣博物館、東京国立博物館、国立科学博物館へ見学に行きました。2日目の午前には大学にて実際の彫金金具を観察し、スケッチをしてその技術を確認しました。午後にはブランドを立ち上げて活躍している先輩に今までの経緯を含めたノウハウを聞き、学びのレポート提出を行いました。



刀剣博物館での集合写真



刀剣博物館での見学



卒業生の講義、作品鑑賞

### 見て・聞いて・学んだメディア業界

#### キャリアデザイン(展開編) コースセミナー

◎担当教員  
メディア・映像研究室 深田雅子  
◎取り組んだ学生  
メディア映像クリエイションコース3年



まずは学生の就職活動状況をヒアリング



講演後は卒業生と意見交換



デザイナーの卒業生とともに様々なポートフォリオを紹介

教室を飛び出してメディア業界について学んだ2日間。1日目は「アドミュージアム東京」で日本の広告の発展、広告・テレビCMのアーカイブに触れました。2日目は卒業生を招き、卒業研究や就職活動、仕事についてディスカッション。また担当教員からポートフォリオ制作のレクチャーを受け、キャリアに対する意識を高めました。

通常授業では不可能な実践的な授業、あるいは集中授業にすることにより効果的に教育できる授業を9月中旬と2月中旬に集中的に行います。

### 実際の空間や素材を見てデザインを学ぶ

住宅リフォームについて学ぼう



ショールーム見学

◎担当教員  
谷口久美子、丸茂みゆき、曾根里子、奥村誠一  
◎取り組んだ学生  
建築・インテリア学科2～4年

集合住宅のリノベーション事例やショールーム見学を通して住宅リフォームについて幅広く学び、また実務に携わる卒業生から住宅リフォームの仕事について話を聞くことで仕事の面白さを知ることができました。最後は設計課題やグループディスカッションにも取り組み、充実した3日間でした。



屋上テラスで集合写真



吊戸棚の高さや仕組みも確認



リノベーションの説明を聞く



グループディスカッション



リフォーム案の講評

### 凹版・平版による制作と全国大学版画展

版画特講

2022年の全国大学版画展は長野県の上田市立美術館で開催されました。この授業は同展の関連企画学生作品販売への出品を目標に、凹版または平版によるオリジナル版画を制作するものです。12月4日には現地を訪れ、他大学の学生作品を鑑賞し、受賞者ギャラリートークにも参加して交流を図りました。

◎担当教員  
基礎造形研究室 北浦肇  
◎取り組んだ学生  
造形学部1～4年



リトグラフ(平版)による制作の様子



リトグラフの制作過程・1色目の刷り



同・2色目の刷り



全国大学版画展の会場風景

### 環境×リサイクル銀から生み出すジュエリー

銀粘土によるジュエリーの制作 2022

制作キットを送付しオンライン指導。リサイクル銀からアートクレイシルバーを開発した相田化学工業株式会社とSGDsを踏まえたコラボレーション授業として継続しています。毎年テーマを設けて若い感性から生み出されるフレッシュなジュエリー提案を目指し、第12回テーマは「チャレンジ」でモチーフを羽として制作しました。

◎担当教員 金工研究室  
押山元子、春田幸彦、成井美穂、藤澤英恵  
相田化学工業株式会社  
◎取り組んだ学生  
造形学部、服飾学部、国際文化学部



オンライン指導



文化祭展示作品



文化祭展示作品



文化祭展示作品

学部・学科で共通して受講できる専門教育科目では、社会との繋がりがや伝統技法の再発見、素材の探求など、デザインの幅広い分野に視野を広げ、多様な表現方法と基礎力を養います。

### 多様な状況の立場になってまちを歩く

デザイン演習I



車椅子に乗ってまちを歩きながら、気になるところをメモしている様子



妊婦体験をしている様子



白杖にたよりながら建物の中を歩く様子

◎担当教員  
建築・インテリア研究室 趙展恩、高橋正樹  
◎取り組んだ学生  
建築・インテリア学科1年

我々が生活するまちなかには子ども、大人、高齢者等、様々な年齢の人々と、車椅子利用者、視覚障がい者、聴覚障がい者等、異なる身体的条件の人々がいます。これから空間デザインを学ぶ第一歩として、このような立場になりまち歩きをすることにより、広い視野を持つことを目的とします。車椅子に乗ったり、目を隠して白杖を用いて歩いたり、妊婦になる等、擬似体験を通じて西新宿のバリアフリーマップを完成させていきます。

### 素材探求しながらイメージ実現に取り組む

造形と素材(ソフトマテリアル)

◎担当教員 造形・色彩学研究室 七里真代、グラフィック・プロダクト研究室 白井信、メディア・映像研究室 荒井知恵、染織研究室 岡本泰子、森田和子  
◎取り組んだ学生 デザイン・造形学科1年

造形と素材(ソフトマテリアル)の授業では、素材を多角的な視点で捉えながら「コマ撮りアニメーションのためのキャラクター人形の作品」「正月飾りとなる干支のペーパークラフトの作品」「染め・織りの作品」の制作を行いました。イメージしたものを表現するために必要な素材探求の大切さを学びます。



コマ撮りアニメーションのためのキャラクター人形作品



作品制作の様子



織の作品



ペーパークラフト「干支」作品



染の作品

### 藍染工房を訪れ社会と学生を結ぶ

テキスタイルワークB II

◎担当教員  
染織研究室 岡本泰子、瀬藤貴史、森田和子、遠藤樹、佐藤百合子(非常勤講師)、野口和彦(特別外部講師)  
◎取り組んだ学生  
テキスタイルワークB II履修3年



絞りと藍染

江戸時代から続く紺屋「野口染物店」にご協力をいただき、実際に仕事で使用されている藍甕で絞り染の風呂敷を制作する課題です。学生自身が考案したデザインを、藍甕にて染から発酵させた染液を用いて染色します。藍染は全国的にも数を減らしており、貴重な学習体験となっています。

### 博物館資料を用いた授業風景

テキスタイルワークB II

◎担当教員  
染織研究室 岡本泰子、瀬藤貴史、森田和子、遠藤樹、佐藤百合子(非常勤講師)  
◎取り組んだ学生  
テキスタイルワークB II履修3年



青花による友禅染下絵写し

伝統的なもみち米の糊で学生自身が糊置きをし模様を染め抜く

文化学園服飾博物館に収蔵されている江戸時代後期の友禅染帷子(友禅染の着物)を基に下絵を作成し、デザインや技法を学びます。時代を超えてきた着物を下絵として用いることで、過去から続く文化を実感し、新たな文化を創造する担い手として成長できるよう特色ある授業を行っています。下絵を描く材料は、古くから滋賀県草津市にて生産されている青花紙を用い伝統技法材料の継承についても意識を深めます。

# 特色ある教育プログラム | イベント・学外連携

Events / External Cooperation

## 東京クリスマスマーケット 2022 ヒュッテ(店舗)のディスプレイアートデザイン

東京クリスマスマーケット 2022



物販ゾーンの全景



装飾制作の様子

◎担当教員  
建築・インテリア研究室 奥村誠一、趙展恩、高橋正樹  
◎取り組んだ学生  
建築・インテリア学科 2～3年

『東京クリスマスマーケット』は、ドイツドレスデンのクリスマスマーケットをモチーフにしたイベントとして 2015 年から開催している、日本最大のクリスマスイベントです。「クリスマス」や「ドイツ」をイメージし、グリム童話やスノードーム等をモチーフにして、本学科の有志 2、3 年生が、ヒュッテ(店舗)の装飾とイルミネーションをデザイン・製作しました。



クライアントと施工会社の方とのデザインミーティングの様子



イルミネーション制作の様子

## 長唄童謡『人形』のミュージックビデオをアニメーションで制作

アニメクリエイション

◎担当教員  
メディア・映像研究室 荒井知恵  
◎取り組んだ学生  
メディア映像クリエイションコース 3年



対面+オンラインで行われた講評会



杵屋さんの YouTube チャンネルで公開された作品

長唄佐門会唄方、杵屋佐喜氏とのコラボレーションとして、童謡『人形』のミュージックビデオ(MV)を制作しました。受講学生がそれぞれ1本のMVを作成し、最後には杵屋氏にグランプリ作品を選定していただきました。グランプリ作品、および全 21 作品を含むダイジェスト版は、杵屋氏の YouTube チャンネルで公開されています。



杵屋佐喜さん(中央)、浅生博一さん(右端)と学生たち

学外のイベントへの参加やワークショップ開催を通して、日ごろの学びの成果を学外に発信し、互いの成長を確認します。今年度はしばらく自粛モードだった各種イベントも徐々に再開し、学生たちの活躍の場が戻りつつあります。

## JFL(日本フットボールリーグ)所属「クリアソン新宿」とのコラボレーション

グラフィック・プロダクトデザインⅡA

◎担当教員 グラフィック・プロダクト研究室  
白井信、星野茂樹、山田拓矢、山崎裕子、黒沼麻帆  
◎取り組んだ学生  
グラフィック・プロダクトデザインコース 4年

「同世代を試合に連れ出すプロモーション」をテーマに、グラフィック・プロダクトデザインコースの4年生が7グループに分かれデザイン提案を行いました。社会と接点を持ちながら行う半期の授業は、学生にとって将来の糧になる時間となりました。



ベスト提案賞に喜ぶEグループ



2位のFグループ



デザインモデル制作中



オリエンテーションの様子



プレゼンテーションの様子



文化祭展示の様子

## 渋谷芸術祭 2022

(有志参加)

◎担当教員  
グラフィック・プロダクト研究室 白井信  
◎取り組んだ学生  
グラフィック・プロダクトデザインコース 3年



イベント告知 ホームページ画面

「都市とアートの関係性の模索」をテーマとした今年の渋谷芸術祭。アニメ「ルーニー・テューンズ」に登場するトゥイーティの生誕 80 周年を記念したワーナー・ブラザーズとのコラボレーション企画に文化学園大学からアーティストとして3名の学生が参加しました。期間中、渋谷スクランブルスクエアに展示され、多くの方々に鑑賞していただきました。



渋谷スクランブルスクエア受付カウンターに展示

## 「インターカレッジ・アニメーションフェスティバル (ICAF) 2022」へ参加

アニメクリエイション、卒業研究

美術系大学専門学校の学生作品を上映するアニメーション映画祭「インターカレッジ・アニメーション・フェスティバル (ICAF) 2022」(9月29日～10月2日、国立新美術館、特設 web サイトにて開催)に参加しました。昨年度の卒業研究作品と、3年生の課題作品からセレクトして上映しました。



上映後、司会の方に呼ばれ壇上で挨拶

◎担当教員  
メディア・映像研究室  
原田行雄、荒井知恵  
◎取り組んだ学生  
メディア映像クリエイションコース 3年、4年



挨拶をする学生(2021年度卒業生)

## 松戸市小金原住宅団地の将来構想デザイン

◎担当教員 建築・インテリア研究室 種田元晴  
◎取り組んだ学生 建築・インテリア学科 3、4年

建築デザイン演習Ⅱ（プレゼミ）他



自治会のみなさんに学生自らプレゼン（2022年7月3日/学生撮影）



学生が作成した将来構想案（計4案）



学生が作成した将来構想案の基本コンセプト

松戸市にある小金原住宅団地（1969年竣工）の自治会より、学外の建築家を介して、団地の豊かなコミュニティが老朽化と世代交代により失われないような空間継承をすべく、土地の魅力を活かした夢のある将来像を提案してほしいとの依頼を受け、本学3、4年生の有志が案を作成し、住民各位および市議会議員にプレゼンする機会を得ました。

## 文化学園大学×名古屋芸術大学、伝統工芸「尾張七宝」を知る

ジュエリー・メタルデザインⅠA

◎担当教員 金工研究室 春田幸彦、成井美穂、藤澤英恵  
◎取り組んだ学生 ジュエリー・メタルデザインコース3年生



名古屋芸術大学内和室でのコラボ展示



文化学園大学ジュエリー・メタルデザインコース3年生の作品

愛知県あま市の「七宝町七宝焼生産者協同組合」と地域連携に取り組んでいる名古屋芸術大学とコラボレーションして地場産業「尾張七宝」について学び、和装・和室に提案する帯留め金具・額絵のデザインと制作を行いました。作品は名古屋芸術大学内の和室で展示し、あま市七宝焼アートヴィレッジで毎年開催されている組合の「新作展」での連携企画として展覧会を行いました。



あま市七宝焼アートヴィレッジでの連携企画展覧会

地域社会とのつながりや産業界との共同活動など、学外との連携も大学の重要な社会的役割です。地域社会に息づく文化や産業を活性化する作業を通じ、大学で学んでいる知識を実践する活動は学生の社会的視野を拡大してくれます。また産業界とのコラボレーションは、実社会で必要とされる多岐にわたる社会的配慮やコミュニケーションの重要性を肌で学ぶ絶好の機会です。日常が戻りつつある今年度は、新しい取り組みを含めさまざまな学外連携活動を以下に報告します。



## External Cooperation

### ● 地域連携活動報告 Regional Alliances

- 01 東京の木“多摩産材”を知る・触れる・広げるプロジェクト [建築・インテリア研究室 丸茂他]
- 02 新宿区 中井・落合活性化プロジェクト「染の小道」 [染織研究室 岡本他]

### ● 産学連携活動報告 Academia-Industry Cooperation

- 03 デコプラインドコンペティション（株式会社ニチペイトとの産学連携企画） [建築・インテリア研究室 曾根他]
- 04 第15回文化学園 学生ネクタイコラボレーション展（東京ネクタイ協同組合との連携授業） [染織研究室 岡本他]
- 05 美術館と作る、おもちゃをテーマとしたメディアの制作（東京おもちゃ美術館との連携授業） [メディア・映像研究室 屋間他]

# 01 東京の木“多摩産材”を知る・触れる・広げるプロジェクト

「インテリアデザイン演習Ⅲ」における家具・インテリア小物のデザインと制作

■ 建築・インテリア研究室 丸茂みゆき、曾根里子、菊池光義（非常勤講師） 参加学生：建築・インテリア学科 インテリアデザインコース4年生 59名



5月、多摩エリアへ見学（「知る・触れる」体験）



10月、リビングデザインセンター「OZONE」での展示



実物制作の作業1



実物制作の作業2



5月、搬入された木材から自分のデザインに合うものを選択



7月、連携先の方が参加した講評会

## 1. 事業概要

東京都あきる野市「秋川木材協同組合」との地域連携13年目の取り組みで、今年はさらに公益財団法人東京都農林水産振興財団からのご協力のもと実施しています。学生が「国産材の現状」について調べ、「木に触れてデザイン・制作」し、「一般の人に東京の木を身近に感じてもらうための企画」を行っています。卒業後に建築・インテリア業界に進む学生が知識だけではなく深い理解を得ることが目的です。連携当初よりも「地産池消、循環型生活」の機運が社会的に高まりをみせているため、参加学生の“多摩産材”ブランド理解が深くなっていると感じます。東京以外の地域や企業の取り組みも調べることで広く理解しながら進めています。

## 2. 今年度の取り組みと成果

①5月の現地見学会：前年までの2年間は自粛のため訪問できませんでしたが今年実施できました。木材競りの場「多摩木材センター」、木材カットなどの加工「中嶋材木店」、多摩産材を活用した「温浴施設」などを見学して、現地の方から国産材の現状について説明を受けました

②授業の進行：接着による反りや水分を含んだ様子、香りなども観察する加工体験をしてからデザインを開始。『多摩産材に興味を持つきっかけとなるもの』としてクライア

ントを設定し「自分優先」ではないデザインを考えます。「スケッチ→モデル作成→CAD図面作成→制作」の手順で進め、制作は実物かCG表現の選択制にしています。各自が加工できる範囲のものとし、CG表現では空間発想を行ってまいります。昨年までは出来なかったグループでの協同作業も推奨しました。

③10月の学外展示：リビングデザインセンターOZONE内の「MOCTION」にて実施。一カ月間にわたる展示とWEBでの取り上げによって、広く多摩産材を紹介しながら学生の取り組みについて評価を得ることもできました。

## 3. 事業の評価と今後の展望等

今年はこの2年間取り組みなかった「一人では出来ないことを協同により解決していく学び」を出来たことが大きかったと思います。特にグループで取り組んだ学生には貴重な機会だった様です。学外展示もその一つであり、今後の課題として挙げていた「広く一般にも共有していける計画」を実現することができました。作業中の生き生きとした学生の姿が印象的でした。図面だけではなく実際につくる意味やコロナ禍における“木材ショック”の事例などを通じて変化していく建築業界を感じながら取り組めるため、次年度も同様の企画で進めていく予定です。



リビングデザインセンター「OZONE」で取り組みを紹介（「広げる」体験）1



リビングデザインセンター「OZONE」で取り組みを紹介（「広げる」体験）2

## 02 新宿区 中井・落合活性化プロジェクト「染の小道」

—小さな街を「染」でうめつくす三日間—

■染織研究室 岡本泰子、瀬藤貴史、森田和子、遠藤樹、佐藤百合子(非常勤講師)  
参加学生:「テキスタイルワークB II」履修学生



「川のギャラリー」では反物が風に揺れる



型紙を使ってカラフルにステンシル 黒い部分が残るように型紙を彫る



刷毛を使って細かい部分を染める



昨年度参加した暖簾「ぬいぬい あみあみ」

### 1. 事業概要

江戸時代より染色産業の中心地だった新宿中井・落合地域には、現在も染色関連の業者が点在している。「染の小道」は街の特殊性を活かし、街中の商店などに染色暖簾をかけた。川に反物を架けたりして街中を染物で埋め尽くすイベントである。「染」をキーワードに街の活性化を図る目的で12年前から本格的にスタートした。本学染織研究室では染織の授業を履修する学生を中心に発足時より様々な形で積極的に取り組み、学生が地域の中での役割を考える機会を作ってきた。

### 2. 2022年度の取り組み

2023年2月24日から2月26日の3日間にわたり開催された。本学からは造形学部デザイン・造形学科3年次選択科目「テキスタイルワークB II」を履修する学生が「川のギャラリー」に参加し、暖簾を制作した。

担当した店舗は、西武新宿線「中井駅」目の前にある炭火焼の串焼きが自慢の居酒屋。地元の方に長く愛されているお店の一つで、いつも活気にあふれている。コロナ禍にも負けないエネルギーを街中へ発信できるような暖簾を目

指し、デザインから染色、縫製までの全ての工程を行った。店舗のために責任を持って最後まで制作することの重要性を学んだ。

### 3. 2022年度の反省と今後の展望

新型コロナウイルス感染対策として2021年度に引き続き小学校体育館での展示が中止になったため、暖簾展示のみの参加となった。今年度は「テキスタイルワークB II」を履修する学生が課題としてデザイン発想に取り組み、多様なデザイン案が得られた。制作段階では個々の作品制作と並行して作業を進めたが、各々が工程をよく理解し相談しながらスムーズに進行できた。

地域の歴史や現状を知り、コロナ禍でも染色をとおしてどのように他者と関わられるかを学べた。また染色は大きな作品を作る場合は一人では難しい場面もあり、協力や助け合いが求められる。今後は実制作も課題として授業に組み込み、グループワークを経験する機会としても活用していきたい。

## 03 デコブラインドコンペティション

株式会社ニチペイトの産学連携企画

■建築・インテリア研究室 曾根里子、丸茂みゆき  
基礎造形研究室 松村由樹子  
■参加学生:プロジェクトゼミナール科目履修者  
デザイン・造形学科、建築・インテリア学科 1~3年



デコブラインドコンペティション参加学生



ブラインドの機能とデコレーション方法を学ぶ



ブラインドのカラー選定

### 1. 事業概要

ブラインドの老舗メーカー、株式会社ニチペイトの産学連携企画として、継続的に実施している取り組みです。学生がオリジナルのブラインドデザインを考え、マスキングテープやカッティングシートなどで実物をデコレーションし、窓まわりやインテリアを演出する「デコブラインド」作品として制作・発表します。2017~2019年度はカフェのブラインドを共同制作、2020年度はコロナ禍で実施を見送りましたが、2021年度は個人作品としてデザイン・制作・コンペティションを行いました。

### 2. 2022年度の取り組み

2022年度は造形学部の1~3年生、計17名が参加する「プロジェクトゼミナール」科目として、5~9月に対面・オンライン授業の組み合わせで実施しました。学生各自が実際にブラインドを設置できる場所(自宅の窓等)を選定し、設置場所に合わせたデザインと実物の制作、コンペティションを行いました。なお、デコレーションするブラインド本体は、ニチペイトの提供によるものです。

授業は、最初にニチペイト関係者の方からブラインドに関する講義やデコレーション方法の指導を受けた後、設置する窓の計測やコンセプト設定、デザイン案の検討を進めていきます。中間プレゼンテーションでは各自のデザイン案

について専門家からのアドバイスもいただき、その後、ブラインド本体のカラー選定と発注、窓への設置、デザインと素材の決定、デコレーション作業と仕上げ、写真撮影等を行います。最終プレゼンテーションは、ニチペイト関係者やインテリアデザインの専門家に向けて、コンセプトや完成写真を1人ずつスライドで発表しました。審査によって、最優秀賞1名、優秀賞2名、インテリアビジネスニュース賞1名の計4名の優秀作品が選出されました。また最終日には、ニチペイトのショールーム見学も行いました。

連携企画の年数も重なり、過去作品例やノウハウが蓄積される中で、学生の多彩な着想や表現が生まれ、連携先からも好評をいただいています。



最終プレゼンテーション

### ニチペイト デコブラインドコンペティション2022 受賞者

#### 最優秀賞

北島 風花(グラフィック・プロダクトデザインコース3年)

#### 優秀賞

野坂 睦斗(デザイン・造形学科2年)

#### 優秀賞

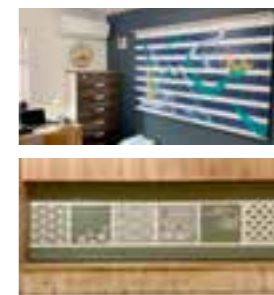
大浦 由万(建築・インテリア学科1年)

#### インテリアビジネスニュース賞

岡村 歩(グラフィック・プロダクトデザインコース3年)



北島 風花作品



野坂 睦斗作品



岡村 歩作品

大浦 由万作品

# 04 第15回文化学園 学生ネクタイコラボレーション展

新しい生活スタイルへの提案

■染織研究室 岡本泰子、瀬藤貴史、森田和子  
 連携企業：東京ネクタイ協同組合、成和株式会社  
 対象学生：「デザイン画部門」デザイン・造形学科1年  
 ソフトマテリアル履修学生（課題として）  
 「デコタイ部門」染織研究室担当科目の履修学生



組合での審査風景

## 1. 事業概要

東京ネクタイ協同組合と文化学園大学との連携による、ネクタイ振興や若い感性の発掘を目的とした2008年より継続しているプロジェクト。2018年度までは染色技法を施した生地でオリジナル性を競う「染タイ部門」、ネクタイのペーパーデザインを競う「デザイン画部門」、ネクタイ生地や既に縫製されているネクタイをリメイク・装飾する「デコタイ部門」（素材提供：成和株式会社）の3部門開催を続けてきたが、2019年度より「染タイ部門」を除く2部門開催となる。

応募作品は東京ネクタイ協同組合が審査し、各部門別に賞を決定。特に優れた作品には全部門を代表して最優秀賞が授与される。第10回記念展より大学からの授賞として「デコタイ部門」に造形学部長賞を、第12回展より「デザイン画部門」に染織研究室賞を新設。第13回展以降では各部門のテーマ毎に優秀賞、造形学部賞、染織研究室賞を設定し、第14回展ではデコタイの募集対象を拡大し全学部対象とした。

## 2. 2022年度の取り組み・今後の展望

2021年度と同様に担当科目の履修学生に限定して「デコタイ部門」の作品を募集し、造形学部外の学生の参加を可能とした。「デザイン画部門」は造形学部デザイン・造形学科1年ソフトマテリアル履修学生をエントリー対象とし、オンライン授業内で取り組む形での開催となった。

審査会の様子は東京ネクタイ協同組合のHPで紹介の上、審査結果は2022年11月に発表した。「デコタイ部門」の作品展示は2022年度の本校文化祭で行い、「デザイン画部門」では全作品展示に代わるものとして応募作品を動画にまとめ、誌上リンク先より視聴可能とした。

ネクタイ協同組合からは「学生生活にも柔軟に適應し、

この息苦しい世の中に対する思いを創作のパネにしたような生き生きとした作品とめぐり合うことが出来た。今後も学生諸氏がこれら作品に感じられるある種のパワーを持ち続けて、これからも物を作ることに取り組み続けて行かれることを希望します。」と激励をいただいた。

オンラインと対面を組み合わせた授業態勢によって変化する要素もありながら、例年同様さまざまなアプローチから取り組んだ作品応募が確認できた。

ネクタイを軸に、学部や様々な垣根を跨いだ多様な取り組みが展開することを期待している。



受賞者のみなさん



【東京ネクタイ協同組合和田匡生理事長】

今回のデザイン画部門の2つのテーマに対する皆さんの回答は非常に興味深いものが多く、世代の異なる我々に強いメッセージとして伝わるものでした。デコタイ部門もこちらが驚くようなアイデアで回答を導き出してきた作品が現れ、とても刺激になり、また感心しました。世はパンデミックに加えて急激な円安から、まだまだ様々な面で厳しい状況が続くと思いますが、皆さんがこの貴重な学び合の時間を可能な限り有意義なものにされ、これからも様々な分野でご活躍されることを祈念致します。



学内での審査風景



2022年デコタイ部門 展示



優秀賞 (テーマA: LGBTQ)



造形学部賞 (テーマA: LGBTQ)



染織研究室賞 (テーマA: LGBTQ)



デコタイ部門優秀賞 (テーマ: [FREE] or [商品企画])



優秀賞 (テーマB: 昭和レトロ)



造形学部賞 (テーマB: 昭和レトロ)



染織研究室賞 (テーマB: 昭和レトロ)



デコタイ部門造形学部賞 (テーマ: [FREE] or [商品企画])

## 学生ネクタイコラボレーション展 受賞者

### デザイン画部門

#### テーマA: [LGBTQ]

- 優秀賞 小坂 志穂 (デザイン・造形学科1年Aクラス)
- 造形学部賞 須貝 結 (デザイン・造形学科1年Aクラス)
- 染織研究室賞 星山 楓 (デザイン・造形学科1年Cクラス)
- 佳作 WYI SEJONG (デザイン・造形学科1年Bクラス)
- 佳作 大日方 結衣 (デザイン・造形学科1年Bクラス)
- 佳作 新城 梨乃 (デザイン・造形学科1年Bクラス)
- 佳作 佐藤 凜香 (デザイン・造形学科2年Dクラス)
- 佳作 石井 菜摘 (デザイン・造形学科1年Cクラス)

#### テーマB: [昭和レトロ]

- 優秀賞 西東 和奏 (デザイン・造形学科1年Aクラス)
- 造形学部賞 豊田 純礼 (デザイン・造形学科1年Dクラス)
- 染織研究室賞 馬頭 遥 (デザイン・造形学科1年Cクラス)
- 佳作 岩間 成 (デザイン・造形学科1年Aクラス)
- 佳作 石井 歩梨 (デザイン・造形学科1年Bクラス)
- 佳作 岡村 瞳 (デザイン・造形学科1年Bクラス)
- 佳作 當麻 由子 (デザイン・造形学科1年Bクラス)
- 佳作 緒方 美佑 (デザイン・造形学科1年Dクラス)

### デコタイ部門

#### テーマ: [FREE] or [商品企画]

- 優秀賞 巻田 凜己 (ファッションクリエイション学科A(ベルフィールド)3年)
- 造形学部賞 丸山 弥子 (ファッションクリエイション学科A(ベルフィールド)3年)
- 奨励賞 戸田 美緒 (デザイン・造形学科1年Cクラス)
- 佳作 長田 真深 (デザイン・造形学科1年Bクラス)

デザイン画部門  
 応募作品  
 動画リンク



東京ネクタイ  
 協同組合HP





## 05 美術館と作る、おもちゃをテーマとしたメディアの制作

東京おもちゃ美術館×メディア映像クリエイションコース

■メディア・映像研究室 昼間行雄、牧野昇、荒井知恵  
鈴木絵美里（非常勤講師）  
■対象学生：メディア映像クリエイションコース4年生  
53名



東京おもちゃ美術館で海外や伝統的なおもちゃを体験！



触れて楽しむおもちゃ



制作した冊子



冊子の内容例

### 「おもちゃと遊び」の関係性をもう一度捉えなおす —映像メディアと出版メディアをグループで制作—

#### 1. 概要

「メディア映像プロジェクト」（メディア映像クリエイションコース4年実習）では東京おもちゃ美術館と連携し「おもちゃと遊び」に関するメディア制作を行いました。誰もが子どものころに遊んだ経験のある「おもちゃ、それを大人になった今の視点から捉えなおし再提案する企画を考えます。

#### 2. プロセスと内容

具体的な授業プロセスとしては、まずは東京おもちゃ美術館への訪問や職員のの方々との会話、資料収集を行いました。そこで得た知見やひらめきをもとに、テーマ・企画に賛同したメンバーが7つの制作チームを立ち上げました。本コースの特徴でもある「映像」「アニメ」「出版」といった異なるスキルを持つメンバーの特性を活かして、多彩なメディアを駆使したアプローチを試みました。あるチームは多くの人を楽しめるよう「手作りおもちゃ楽器制作をネタにしたバラエティ番組風映像と冊子」を制作したり、またあるチームはアニメ制作のスキルを活かした「おもちゃ美術館のアニメーションによるPR映像」を制作したり、新しい遊び方を提案する「新ジャンルのカードゲーム制作」などユニークな企画も誕生しました。他にもゲーム紹介ムービーと冊子を制作した「インパクトつよつよボードゲーム」や懐かしいおもちゃを紹介する「童心に還ろう」、「まだ子どもでいさせてよ」など、レトロスペクティブな定番企画を含めバリエーション豊かな作品群を制作できました。



美術館の職員の方からのレクチャー

制作の各段階のプレゼンテーションでは各教員からのアドバイスだけではなく、東京おもちゃ美術館の職員の方々からの「おもちゃのプロ」としてのアドバイスを受けることで、制作サイドからだけでは得にくい多くの気づきを得られました。

グループ制作を通じて目的・目標の設定、役割分担とスケジュールリング、コミュニケーションといったマネジメントの力を培うことができました。

完成した各チームの作品のうち映像作品はYoutubeで公開、冊子作品は外部で印刷を行い文化祭や各種学校イベントで展示されました。

## 第55回日本七宝作家協会国際展

**入選** 安保 楓佳（ジュエリー・メタルデザインコース2021年度卒業生）  
海老沢 優（ジュエリー・メタルデザインコース2021年度卒業生）  
小畑 亜美（ジュエリー・メタルデザインコース2021年度卒業生）  
森 琴美（ジュエリー・メタルデザインコース2021年度卒業生）  
渡邊 さゆり（ジュエリー・メタルデザインコース2021年度卒業生）



安保「白蘭鏡と虹（バラ）」



海老沢「ひととき」

日本七宝作家協会国際展は、国内外の七宝作家や学生、一般から広く公募され、七宝工芸美術の向上と発展のため開催されています。



森「Keep Time」

## 公共広告のコンテストで優秀賞を受賞

**優秀賞** ZHANG RUICHAO（メディア映像クリエイションコース4年）

海洋環境保全がテーマの本作【NO PLASTICS】は、投棄されたプラごみが生物となって泳ぐ姿をアニメーションで描写しました。260作品の応募がありファイナリスト23作品の中で、プラごみの形を組み合わせたシュールな生物の造形力とCGの技術力が高く評価され、優秀賞を受賞しました。



ZHANG RUICHAO 作品

## 日本インテリア学会 第29回卒業作品展

**特別作品賞** 吉川 陽菜（建築デザインコース2021年度卒業生）

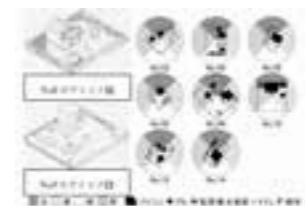
日本インテリア学会が主催する「第29回卒業作品展」において、建築・インテリア学科の卒業生が「特別作品賞」を受賞しました。同展は、日本インテリア学会のWEBサイトにてオンライン形式で開催され、48の参加校から出展された作品と解説が公開されました。



吉川 陽菜 作品

## 2022年度日本建築学会大会（北海道）学術講演会

**若手優秀発表賞（建築計画部門）** ナダムバヤル マララ（造形学部 建築・インテリア学科 建築デザインコース 2021年度卒業生）

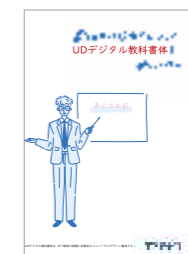


研究発表タイトル「モンゴル都市部に暮らす定住遊牧民の住まいに関する研究 その2 グル地区の住宅敷地における要素分析」（指導教員：久木雄江教授）

2022年度日本建築学会大会（北海道）学術講演会で、建築・インテリア学科建築デザインコース卒業生が「若手優秀発表賞」を受賞しました。国立大の受賞者が大半の中で留学生の受賞は快挙といえるでしょう。

## 第11回OAC学生広告クリエイティブアワード

**グランプリ** 「株式会社モリサガ」のグラフィック クイケン ステラ（グラフィックプロダクトデザインコース4年）  
「全国浴槽組合」のグラフィック 高根澤 佑実（グラフィック・プロダクトデザインコース4年）



クイケン ステラ 作品



高根澤 佑実 作品

グラフィック・プロダクトデザインコースの4年生が「グラフィック・プロダクトデザインII B」の授業で公益社団法人日本広告制作協会主催のOAC学生広告クリエイティブアワードに取り組み、2名がグラフィック部門のグランプリを受賞しました。またそれ以外にも5名が選考作品として選出されました。

## 住宅課題賞 2022

**入選** 河村 拓磨（建築・インテリア学科2年）

首都圏の41大学56学科の建築系大学が参加する東京建築士会主催の住宅課題優秀作品展「住宅課題賞2022」に本学の代表者として出展、入選を果たしました。



プレゼンテーションボード

展示された模型

## 建築学縁祭2022・建築新人戦2022のダブル入選

**入選** 川村 幸輝（建築デザインコース3年）

建築学縁祭は首都圏の建築学生を対象とした設計課題コンテストです。また、建築新人戦は学校で取り組んだ設計課題作品を対象に実施する、日本最大規模のコンテストです。3年前期の建築デザインスタジオIで取り組んだ、「時」をテーマにした美術館の制作課題が、2つのコンペの100選にダブル入選しました。



展示された模型



プレゼンテーションボード

## 第75回新匠工芸会

**入選** 栗原 智子 (旧テキスタイルワークコース2014年度卒業生)  
佐々木 芹菜 (旧テキスタイルワークコース2021年度卒業生)

歴史ある染織部門に2名の型染作品が入選しました。



栗原 智子作品

佐々木 芹菜作品

## 2023年 卯年年賀状コンテスト

**最優秀賞** 岩村 優 (グラフィック・プロダクトデザインコース3年)  
**優秀賞** 岡村 歩 (グラフィック・プロダクトデザインコース3年)  
岩崎 瑠奈 (メディア映像クリエイションコース3年)

ネットスクウェア株式会社と本学とのコラボ企画「2023年 卯年年賀状コンテスト」が行われ、Webサイトの受注枚数により受賞者が決定しました。



岩村 優作品

## 第16回糸魚川翡翠ジュエリー・アクセサリデザイン画コンテスト

**優秀賞** 川上 智華子 (ジュエリー・メタルデザインコース4年)



川上 智華子作品

公益社団法人糸魚川法入会が主催の公募展で、新潟県産の翡翠を使用した文化の拡がりを目指して開催されています。

## 第32回公募 2022 日本ジュエリー展

**入選** 市川 碧深 (ジュエリー・メタルデザインコース2021年度卒業生)  
伏見 尚 (ジュエリー・メタルデザインコース2021年度卒業生)  
井上 あかり (ジュエリー・メタルデザインコース2021年度卒業生)  
渡邊 さゆり (ジュエリー・メタルデザインコース2021年度卒業生)



伏見尚 作品名:「Fascination」

日本ジュエリー展は時代に先駆けた自由な発想で、あらゆる素材を用いて確かな技術を駆使し表現された作品の公募展です。

## The 5th NIF・YOUNG TEXTILE 2022

**入選** 遠藤 樹 (旧テキスタイルワークコース2016年度卒業生)

第41回「JAPANTEX2022」(東京ビッグサイト)会場



会場展示風景

内において開催されました。この展覧会は、テキスタイルデザイン教育を行う全国の大学・大学院の教育機関で制作された作品の中から、優れた作品を選考し展示するものです。

## 第28回アートコンテスト 町田市展

**町田市美術協会長賞** 住吉 利菜 (グラフィック・プロダクトデザインコース3年)

町田市美術協会が主催するコンテストで183点の作品の中から30点が入賞し、「町田市美術協会長賞」を受賞しました。



作品名:「ゴミは連鎖する」

## 銀茶会の茶席

**審査員賞** 間宮 千尋 (建築デザインコース4年)  
**受賞** 別府 美南 (建築デザインコース4年)  
柳島 美祐 (建築デザインコース4年)  
矢中 大地 (建築デザインコース4年)  
福留 隼太郎 (建築デザインコース4年)



提出した模型



プレゼンテーションボード

日本建築学会が主催する建築文化週間 学生グランプリ2022「銀茶会の茶席」において、造形学部建築・インテリア学科4年生の作品「脈-人をつなぐ、空間をつなぐ-」が審査員賞(出口亮賞)を受賞しました。今年のテーマ「秋空(アキノソラ)」に相応しい鬼灯をモチーフにした美しいデザインが評価されました。

## 第50回伝統工芸日本金工展

**入選** 田中 綾 (ジュエリー・メタルデザインコース2021年度卒業生)  
宮崎 柚香 (ジュエリー・メタルデザインコース2021年度卒業生)



田中綾 作品名:「打ち込み象嵌花器 百々白雉」

伝統工芸日本金工展は鍍金、鍍金、彫金の金属工芸の作品を対象にした公募展で、そのうち21+部門は30歳未満の作家、および学生を対象とした部門です。



BUNKA ZOUKEI



## 編集後記

2021年度は一步一步着実に対面授業や学外活動の機会を取り戻し、遅く取り組む学生たちの様子をご紹介しました。今年度は3年ぶりに卒業研究展の学内開催が叶い、休止していた学外活動の復活、新たなイベントへの参加など、積極的に活躍する学生たちの姿がお伝えできればと考えた紙面構成となっています。創立100周年に向けて新たに歩み始めた教育の記録としてご覧いただくと幸いです。ご協力いただいた先生方、企業の方々、そして本学の今を新鮮に伝えるためのアイデアや企画をご提案くださった編集デザイナーの廣田さまにおかれましては心より感謝申し上げます。

造形学部年間教育活動報告集編集委員

岡本泰子

## 文化学園大学 造形学部年間教育活動報告集2022

### ● 造形学部専任教員

安高信一 荒井知恵 岩塚一恵 遠藤樹  
大関徹 岡部隆信 岡本泰子 奥村誠一  
押山元子 角谷彩子 嘉松聡 加茂幸子  
北浦肇 北岡竜行 黒沼麻帆 澤田志功  
七里真代 白井信 瀬藤貴史 曾根里子  
高橋正樹 谷口久美子 種田元晴 趙晟恩  
鳥海薫 成井美穂 春田幸彦 久木章江  
昼間行雄 深田雅子 藤澤英恵 星野茂樹  
牧野昇 松村由樹子 丸茂みゆき 森田和子  
山崎裕子 山田拓矢 横山稔 渡邊秀俊  
渡邊裕子

### ● 造形学部年間教育活動報告集編集委員

谷口久美子 岡本泰子  
安高信一 加茂幸子

### ● 写真提供

三守敬次 鈴木義明 岡本大祐 アイキ元

### ● デザイン hirotaS / 廣田武志

● 発行：2023年3月10日

● 発行者：文化学園大学造形学部  
渡邊秀俊

〒151-8523 東京都渋谷区代々木3-22-1  
TEL. 03-3299-2310 FAX. 03-3370-6202  
http://bwu.bunka.ac.jp

※本誌に掲載されている作品・写真等の無断利用、複製を禁じます。

# 文化学園大学

造形学部 デザイン・造形学科 建築・インテリア学科

〒151-8523 東京都渋谷区代々木3-22-1

TEL. 03-3299-2302 (造形学部長室)

<http://bwu.bunka.ac.jp/index.php>

